

2. 勉強ができるようになるには?①

先週まで、「生活習慣が大切。勉強とも関係がある。」をお伝えしてきました。今回からは、学習を伸ばす直接的な要因について、具体的な事例を挙げ、お伝えします。生活習慣は当然できているという前提です。

◎英語の早期教育を充実させるために必要な力とは?

早期英語教育について異を唱えている人たちがいます。驚いたことに、英語教育の専門家たちなのです。NHKの英語講座に多数出演している英語教育草分けの一人、鳥飼玖美子さんの言葉です。

「早期教育は幻想。母国語をきちんと習得してからの方が、英語を効果的に習得できる。」

バイリンガル教育専門大学として有名なトロント大学、ジムカミング教授の「トロント在住の日本人対象の調査」では、それを裏付ける結果が出ています。

A: 日本語の読み書き能力をしっかりと身に付けて年長になってからトロントに移住の子

⇒しばらくすると、現地の子供並みに、読み書き能力を身に付ける。

B: 日本語の読み書き能力をしっかりと身に付ける前の幼少期にトロントに移住の子

⇒発音はすぐに習得するものの、読み書き能力はなかなか身に付かず、授業に付いていけない。

“英会話ができる＝英語を使った学習ができる”ではないのです。母国語を習得する過程で学んだ国語の知識や技能をもとにした思考法が他の言語である英語を系統的に習得するときにも大いに役に立つのです。

◎学習言語とコミュニケーション言語

学力の向上に欠かせない言語能力（読み書き能力）を学習言語といいます。一方、意思表示をし人間関係を築く言語能力（話す聞く能力）をコミュニケーション言語といいます。どちらも大切ですが、高度な知識・技能を習得するためには、学習言語（読み書き能力）をきちんと身に付ける必要があります。おしゃべりが好きだから、発表が得意だからといって、必ずしも勉強ができるわけではないのです。

とは言うものの、ただ読めればいい、ただ書ければいいではありません。言語体系の特徴や文法を習得し、難度の高い文章を自由自在に書いたり読んだりする力を付ける必要があります。それによって論理的思考力を高めることができるからです。今週、赤坂小学校HPにアップした「作文教室」の動画で、作文を書くときに大切なのは、ある事を「定義」したら、「比較」するものを設定し、両者を結び付けて「考察」することであると説明しました。この「定義」「比較」「考察」は高度な学習言語習得に欠かせない力なのです。

◎学習言語能力が向上すると、感想が変わる

重要な学習やまとめ学習のときに学習感想を書かせます。学習感想とは、授業内容に対して、どのように感じたか、考えがどう変わったか、今後はどうしたいかを書くものです。しかし、書けない子は少なくありません。

『楽しかったです。』『次は手を挙げて発言します。』『ノートにまとめるのをがんばりました。』

と、取り組み方を書いてしまうのです。そんな子も学習言語能力を高めていくと、学んだことを「定義」し、「比較」し、「考察」して書くようになります。それも意識せずに、自然に…です。

「火山灰を拡大してみると宝石みたいにキラキラしていて角ばっている粒がたくさん見えました。その粒の中にもいろいろな色や形があっておもしろかったです。もっといろいろな所にある砂もみてみたいです。」

書き方が分かるようになると、見方や考え方、まとめ方がかくも変わるのです。今回からは、学習言語としての日本語の大切さをテーマに、「国語をしっかりと学習することが、学力を大きく伸ばすことになる」をお伝えしていきます。